

| 分野 | 医療・健康 | |
|--|--|--|
| <p align="center">現状と課題(A欄)</p> | <p align="center">「目指すべきまちの姿」に進んでいくための基本的な方向性など(C欄)</p> | |
| <p>(現基本構想の進捗検証・評価)</p> <p>○「健康長寿と支えあいのまち」というコンセプトに基づき、いろいろな施策に着実に取り組んできている。</p> <p>○この10年で在宅医療体制や介護サービスは充実してきているという実感がある。</p> <p>○この間の区取組の延長戦でいくのがよいと考える。10年後の達成目標をどこに置くか、そのスピード、施策のメリハリを考えることが大事である。</p> <p>(今後の社会環境や区民生活・意識の変化等の新たな視点)</p> <p>○健康づくりのためには、運動や休養だけではなく、趣味や社会活動といった側面も重要。高齢者の方々が地域の中で活躍できるような機会を提供するなど、幅広い活動が求められる。</p> <p>○「人生100年時代」を迎えていく中で、地域の中で健やかに暮らせる環境をどう整えていくかが重要。</p> <p>○今後10年を見据えたときには、コロナ禍におけるコミュニケーションの核としても、医療・健康の面でも「データ化」がキーワードになる。</p> <p>○数の論理だけでは、ダイバーシティ（多様性）が妨げられる可能性があるため、一人一人のQOLを考慮しつつ、多様な人々が生き続けられるまちを目指すべき。</p> | <p align="center">(基本的な取組の方向性)</p> | <p align="center">(具体的な手段・方法、取組など)</p> |
| <p align="center">目指すべきまちの姿(B欄)</p> | <p align="center">①人生100年のライフステージを自分らしく、いきいきと支えあって住み続けられる健康長寿のまち</p> | |
| <p>(目指すべきまちの姿)</p> <p>①人生100年のライフステージを自分らしく、いきいきと支えあって住み続けられる健康長寿のまち</p> <p>②ICT等を活用し、一人一人にあわせた医療・支援が地域に行き渡って安心して暮らせるまち</p> | <p>○「人生100年時代」の健康長寿社会に向け、若い世代から体力向上を図る、歯の健康を維持するなど、世代を超えて、生涯を通じた健康づくりを推進していく。</p> <p>○高齢者が増える中、趣味の場所を確保することは、医療・介護・フレイル予防の観点から重要であり、そのための取組を進める。</p> <p>○高齢化が進むことにより認知症は区全体に及ぶ大きな課題となることから、本人や家族だけでなく、区全体で認知症対策に取り組んでいく。</p> <p>○社会的孤立の防止や生きがいの確保といった観点から、就労や趣味、動物との触れ合いなどの様々な切り口で、支える人も支えられる人も含め、誰もが自然な形で社会参加が出来るような、地域の居場所づくりを進める。</p> <p>○AIの発展によって集められたビッグデータの中で解析したことを、健康づくりなどに活かしていく。</p> <p>○地域の中の見守りは、行政や専門職だけに頼らず、地域に関心を寄せるまちの人を増やし、その人たちの力を集めるといった視点で取り組む。</p> | <p>○糖尿病予備軍である生活習慣病の対策を強化する。</p> <p>○自助を促すといった観点からも、オーラルフレイルを含めた、高齢者の社会的フレイルの予防対策を進める。</p> <p>○認知症対策の推進に向けて、条例の制定を含めた対応策を検討する。</p> <p>○動物の飼い主たちが集まる公園などでのコミュニティが存在する。こうした既存コミュニティを活用し、居場所づくりを推進する。</p> <p>○若者も含めた多世代が、町会などの地域活動に参加できる仕組みづくりを進める。</p> <p>○「健康長寿と支えあい」において、一人暮らしの高齢者をどう支えていくのが大事。地域（町会等）の役割は重要になることから、地域を活性化させる取組を進めていく。</p> <p>○社会的孤立の防止に当たっては、単身高齢者だけでなく、家族と同居する高齢者の社会的孤立も視野に入れて対策を講じていく。</p> <p>○地域包括ケアシステム、地域包括支援センターを中心とした地域のネットワークのさらなる強化のために、まちづくりやコミュニティとの連携を進める。</p> <p>○「きずなサロン」のような、地域が主体となった支えあいの居場所を広げ、そこを拠点とした支えあいが循環する仕組みを整える。</p> |
| <p>(目指すべきまちの姿を設定した考え方など)</p> <p>○「人生100年時代」に、誰もが自分らしく生き、誰も取り残さない社会をつくるには、自由に誰でも利用できる居場所が必要。また、多世代にわたり楽しく過ごせる社会にしていくことが大事。①</p> <p>○健康長寿のためには、高齢期からではなく、小中学生・青年期からの健康づくりが必要。①</p> <p>○社会的に孤立している人が多い。分断された社会は、健康にも生活にも悪い影響を与えるので、多様性や共生の考え方のもと、孤立化を防いでいくことが重要。①</p> <p>○ICT等を有効に活用し、必要な人に必要な医療・支援が適切に行き渡ることが大事。②</p> <p>○団塊の世代が後期高齢者世代に入る。地域で末永く暮らせる環境づくりとして、区内医療機関の病床数を踏まえ、医療環境を整える意味でも在宅医療体制の充実はこれから重要。②</p> <p>○医療・介護の一体化・一元化が大事。②</p> | <p align="center">②ICT等を活用し、一人一人にあわせた医療・支援が地域に行き渡って安心して暮らせるまち</p> <p>○ICT技術の地域医療分野への効率的な導入について検討を進める。</p> <p>○病床数が少ないという地域特性を踏まえ、終末期までを見据えて、地域で末永く暮らせる環境づくりとして、在宅医療体制を充実させる取組を推進していく。</p> <p>○安心した暮らしの確保に向けて、医療や支援を必要とする人に、適切に提供する仕組みを整える。</p> <p>○誰もが暮らしやすい環境づくりという観点から、小児医療体制や重度心身障害者医療体制の充実に向けた取組を推進していく。</p> <p>○災害時における緊急的な医療体制の構築に向けた取組を進める。</p> <p>○今後、コロナのような感染症が新たに発生することも想定し、地域医療の中でどのような対策が取り得るのか検討を進める。</p> <p>○大きな視点から、医療と介護の一体化、一元化に向けた取組を進める。</p> | <p>○医療介護の一元化を見据え、AIを活用した自身の医療情報等の管理更新ができる仕組みの構築や、医師とケアマネジャーが情報を共有できる体制を整備する。</p> <p>○医療情報のデータベース化やかかりつけ薬剤師の整備による重複・過剰診療等への対策や医療の発展について検討を進める。</p> <p>○電話診断、オンライン診療、チャット相談などを活用し、誰もが、必要なときに必要な医療や支援を受けられる仕組みを整備する。</p> <p>○在宅医療や地域での連携を通じ、地域全体として総合病院的な機能を持たせるようなネットワークの構築を検討する。</p> <p>○災害時に病院を避難所としたり、wi-fiで他の地域の医者とオンラインでつながるといった、新しい災害医療体制の構築に取り組む。</p> <p>○医療や介護の専門職によらない、住民相互のサポートや見守り、助けあいの仕組みを構築する。</p> |